

1 今を知る 2 背景を探る 3 話し合う

18歳の1票

今月の
テーマ

国債



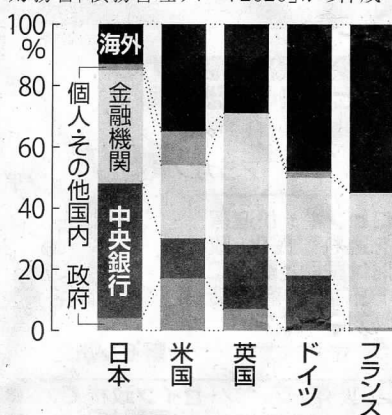
新型コロナウイルスの感染拡大は日本の財政にもダメージを与えている。コロナ禍への追加の経済対策を盛り込んだ2020年度第3次補正予算が先週末、成立した。これをきっかけに、国の借金となる「国債」について考えよう。

膨らみ続ける国の借金

コロナ禍 112兆円発行

第3次補正予算は1月28日の参院本会議で、自民、公明の与党と日本維新の会などの賛成多数で可決、成

◆国債等の保有者は国により異なる
財務省「債務管理レポート2020」から作成



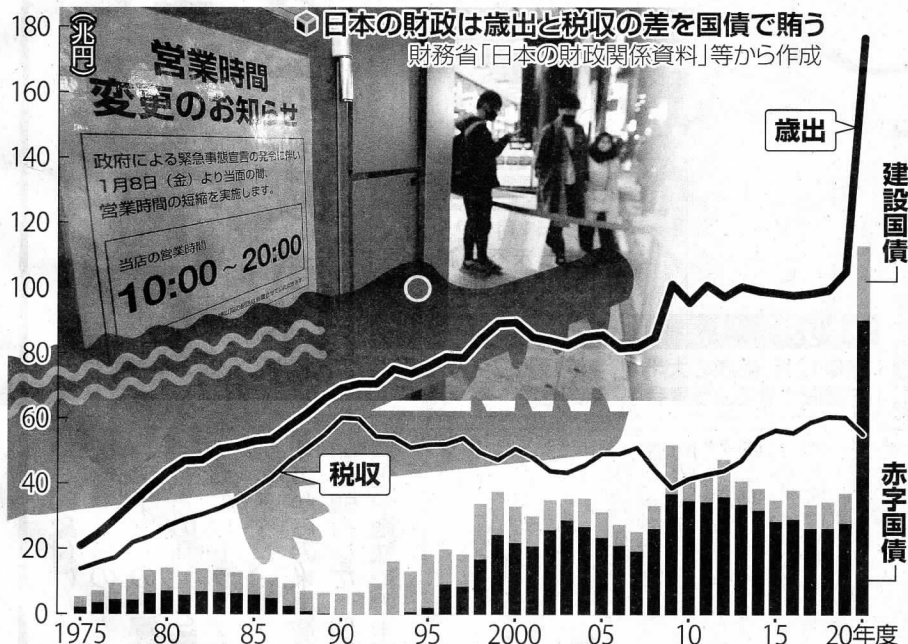
保有率 日銀が4割

Data 日本国債の保有率は2019年12月末で「中央銀行（日本銀行）」44%、「金融機関（中央銀行除く）」37%などで「海外」は13%。主要国をみると海外は米35%、英29%、独48%、仏55%で、日本に比べて海外投資家の保有率が高い。日銀の国債保有率は13年3月末で13%だった。その後、景気浮揚に向けて国債を金融機関から大量に買い入れ、市場にお金を流し込む「異次元緩和」により上昇した。

Check!

- ・コロナ禍で家計や小遣いではどんな出費が増えただろう。
- ・追加の出費をどうやって埋め合わせてきたのだろう。

◆日本の財政は歳出と税収の差を国債で賄う
財務省「日本の財政関係資料」等から作成



当初予算の一般会計歳出は102.7兆円。歳入は税収を63.5兆円と見込み、公共事業などに使い道を限った建設国債と歳入不足を補うだけの特例国債（赤字国債）を合わせて32.6兆円発行するなどして賄う枠組みだった。追加となる新型コロナウイルス対策の補正予算3回の歳出は計73.0兆円。国債を発行して財源に充てた。これにより20年度一般会計の歳出は175.7兆円、国債発行額は112.6兆円に膨らんだ。

歳出と税収の推移をグラフにするとワニが口を開けたように見える。歳出が増え、ワニの口を閉じるには税収を増やす必要がある。それは国債発行の抑制につながる。借金頼みの財政から抜け出すには、税収を増やす経済の再生、活性化が欠かせない。

■広がるワニの口
第3次補正予算の歳入をみると、コロナ禍で日本経済が傷んでいることがはっきりとわかる。当初予算で63.5兆円と見込んでいた税収は、景気や雇用情勢の悪化を受けた消費税や所得税、法人税に加え、減便・欠航が続く航空機燃料税、訪日外国人激減が直撃した国際観光旅客税も落ち込んだ。このため8.4兆円を減額し、55.1兆円に修正せざるを得なかった。税収減も国債で穴埋めし、国の借金はさらに増えた。

■税収減のダメージ
第3次補正予算の歳入をみると、コロナ禍で日本経済が傷んでいることがはっきりとわかる。当初予算で63.5兆円と見込んでいた税収は、景気や雇用情勢の悪化を受けた消費税や所得税、法人税に加え、減便・欠航が続く航空機燃料税、訪日外国人激減が直撃した国際観光旅客税も落ち込んだ。このため8.4兆円を減額し、55.1兆円に修正せざるを得なかった。税収減も国債で穴埋めし、国の借金はさらに増えた。